



beyond ecology

環境の未来をつくる人々を支える。

公益社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 2025 年度 年次レポート

(2025 年 3 月～2026 年 2 月)

act*beyond***trust**

beyond ecology

環境の未来をつくる人々を支える。

環境問題は、自然だけの問題ではありません。
私たちの社会や暮らしのあり方と深く結びついています。

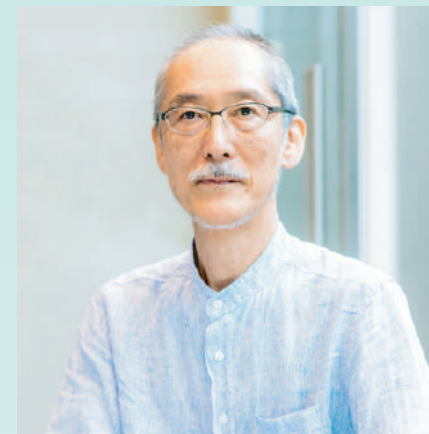
私たちは、問い続けてきました。
便利さや豊かさの裏で、環境への負担はだれに押しつけられているのか。
「持続可能」とは、だれにとっての「持続可能」なのか。

環境問題を社会の構造や公正さの視点から捉え、
市民による実践を支えてきた、独立した民間助成団体です。

CONTENTS

● 代表からのメッセージ	3
● 役員・スタッフのご紹介	4
● 2025 年度のアクト・ビヨンド・トラスト (abt)	5
● 2025 年度公募助成事業	6
オーガニックシフト部門（ネオニコチノイド系農薬問題プログラム）	
オーガニックシフト部門（オーガニック給食推進プログラム）	
エネルギーシフト部門	
東アジア エコ&ピースシフト部門	
フェーズシフト部門（スポット助成プログラム）	
● 2026 年度公募助成事業	13
● 2025 年度広報・啓発／調査・研究事業	14
共創シンポジウム「東アジアのエコ&ピースシフトをめざして」	
Future Dialogue #11「東アジアにおける脱原発と気候正義の最前線」	
2024 年度助成成果報告会	
オーガニックくえすと	
『どうなっているの？ 生協の農薬表示』	
acty（アクティ）	
● 2025 年度決算報告（短縮版）	18
● ご寄付について	19

代表からのメッセージ



代表理事 星川 淳

作家・翻訳家／1952 年、東京生まれ
国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン事務局長（2005～2010 年）退任後、2010 年末より現職。著書に『魂の民主主義』（築地書館）、訳書に『一万年の旅路』（翔游社）、『ガイアの時代』（工作舎）など、80 冊以上を手がけてきた。

abt は 2025 年度、一般社団法人から公益社団法人への脱皮に挑み、11 月には正式な認定を受けることができました。内閣府による公益認定はなかなかハードルが高く、それまで 15 年にわたって積み上げた助成事業の実績が「公益」の資格に値すると評価された結果です。このかん、さまざまな形で応援してくださった方々にも、改めて誠心より感謝申し上げます。

また、公益法人への移行に備え、従来はネオニコチノイド系農薬問題だけだった一般公募をすべての助成プログラムに広げたうえ、部門名も「オーガニックシフト」「エネルギーシフト」「東アジア エコ & ピースシフト」「フェーズシフト」に整理し直して、4 部門 5 プログラムの公募を実施しました。

気候変動の激化や、歯止めなき武力行使をはじめ、国内外の社会課題は増加と複雑化の様相を強めています。環境分野に特化した民間助成団体ができることは限られていますが、公正かつ平和で持続可能な世界をめざして、布石を打ち続けたいと思います。

公益社団法人に認定されました

abt は、2025 年 11 月に内閣府より公益社団法人の認定を受けました。公正で持続可能な社会をめざす取り組みが、公益性・透明性・継続性などの観点から評価されました。公益社団法人へのご寄付は、社会・環境課題の解決や公益活動を支える社会貢献につながるとともに、一定の条件のもとで税制上の優遇措置を受けることができます。個人・法人を問わず、寄付を通じて持続可能な社会づくりにご参加いただけます。

公益法人とは？

一般社団法人・一般財団法人のうち、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与すること、ならびに事業運営の公正性・透明性が担保されていることなど、厳格な基準を満たす法人として認定されるものです。

個人のみなさまからのご寄付

個人のみなさまからのご寄付について、支払った年分の所得控除として「寄附金控除」の適用を受けることができます。寄附金控除を受けるためには確定申告の際に手続きが必要になります。詳細は国税庁ウェブサイト「一定の寄付金を支払ったとき（寄附金控除）」をご覧ください。

法人のみなさまからのご寄付

法人のみなさまからのご寄付は、「特定公益増進法人等への寄付金」に該当し、一般の寄付金とは別枠の特別損金算入限度額の範囲内で、損金算入することができます。これにより、社会貢献活動の一環として税制上の優遇措置を受けながら abt の活動をご支援いただくことが可能です。

役員・スタッフのご紹介

● 役員



代表理事
星川 淳
作家・翻訳家



業務執行理事
美濃部 真光
NPO 法人 地球と未来の環境
基金プログラムオフィサー



理事
曹 美樹 (CHO Mistu)
日・韓翻訳／通訳



理事
本山 央子
NPO 法人 アジア女性資料
センター理事



理事
安田 節子
食政策センター・ビジョン
21 代表



理事
李 妍焱 (LI Yanyan)
駒澤大学文学部社会科学科
教授



監事
島 昭宏
アーライツ法律事務所代表
弁護士



監事 (新任)
早瀬 敏博
早瀬税理士事務所 代表税
理士／経営コンサルタント

● スタッフ

事務局長／プログラムオフィサー **北島 拓也**

助成実務／リサーチアシスタント **八木 晴花**

ファンドレイジング担当

広報担当

竹田 憲一

島内 梨佐

新任監事からのごあいさつ

監事 (新任) **早瀬 敏博**

昨年 5 月より監事を拝命しました早瀬と申します。私はこれまで約 30 年ほど税務会計業務を通じて数多くの企業の運営と発展のお手伝いをしてきましたが、アクト・ビヨンド・トラストの取り組んでいる環境問題への対応は、もはや社会貢献にとどまらず、企業や地域社会の持続的な発展を支える重要な課題であると言えます。

微力ではありますが、当方も監事として公正かつ健全な法人運営の支援に尽力させていただき、少しでも環境問題の解決に役立てば幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

新任事務局長からのごあいさつ



事務局長／
プログラムオフィサー
北島 拓也

2025 年度より、新設された事務局長職に就任しました、北島拓也です。abt に入職して 5 年目となります。

私はこれまで、都市デザインや住民参加のまちづくり (コミュニティ・デザイン) を学び、20 代は主にホームレス問題や貧困問題に関する調査研究およびアドボカシー (政策提言) に取り組んできました。環境課題に取り組む abt の活動とは関係がないように見えるかもしれませんが、しかし私自身は、どちらも「環境的不公正をいかになくすか」という問いにつながっていると感じています。

便利さや豊かさの裏側で、「だれかに負担が押しつけられていないか」「見えなくされてしまっている人はいないか」といった視点を大切にしながら、社会・環境課題の解決に寄与できるよう、取り組んでいきたいと思っています。

公募助成事業

2025 年度は 4 部門・5 プログラムによる公募の結果、計 19 企画・総額約 1270 万円の助成を行いました。

助成件数
19 件

助成総額
1270 万円

広報・啓発／調査・研究事業

市民が幅広い環境課題について学び、理解を深めるため、イベント実施やレポート公開、オンラインコミュニティ運営などを行ないました。

▶ランチタイムイベントや YouTube 配信など様々なスタイルのイベントを実施しました



未来の課題を先取りする新しい公募助成へ

これからの社会と環境の要請に応える助成プログラムへと刷新するため、プログラムの新設や名称改訂を行なうとともに、すべての助成事業を公募制としました。

エネルギーシフト部門

東アジア エコ&ピースシフト部門

オーガニックシフト部門

フェーズシフト部門

新設 オーガニック給食推進プログラム
ネオニコチノイド系農薬問題プログラム

新設 スポット助成プログラム

2025 年度 公募助成事業

助成先の声 abt の助成を受けて

多くの成果と社会的インパクトを生み出した助成先みなさんに、1年間助成を受けて得たことや学んだこと、これからの思いなどについて伺いました（助成成果報告書より抜粋のうえ編集）。ここにその一部をご紹介します。



わたしたちのようなリソースの少ないユースたちは、国内各地や海外などの地域に実践的に学びに行こうとすると、航空券などの交通費や宿泊費のことを考えると生活が大変で諦めてしまいます。今回の助成により、航空券と宿泊費を賄うことができたので、気持ちの余裕も持って学びに励むことができました。



柔軟な支援体制により、急な変更や機会にも対応でき、今後の活動基盤となる国際的な信頼関係を構築できたことに深く感謝申し上げます。



abt の研究への深い理解と愛情、公開プレゼンでの適切なアドバイスは非常に有難かったです。



このような草の根の活動を応援していただけると、全国のオーガニック給食推進に大きな力となります。



助成金に加え、いろいろな形でサポートを提供していただき、感謝に堪えません。



何かできるかもしれないと思えるきっかけをいただいたこと、発信の場所をいただいたことは今後、多くの学校で取り組む際の参考にさせていただけるのではないのでしょうか？



本助成は、新たな課題の発見につながる基盤を支えていただいた点で非常に意義深いものでした。今後の助成事業においても、ネオニコチノイド系農薬に加え、その代替として使用が拡大している農薬群についても注目していただけると、より包括的な環境リスク評価につながると考えます。

abt の助成事業～15 年間で培ったもの

私たちは資金提供だけでなく、活動の発掘・公募選考・専門家との連携や丁寧な伴走支援まで行ないます。特に、社会がまだ認知していない問題や注目されにくくても重要な問題に対する取り組みへの支援を通し、環境の未来をつくる人々を支えることを重視してきました。

環境の未来をつくるために大切なのは、無数の小さな挑戦です。それらが社会を変えるまでには、時間と、丁寧な支援が必要です。私たちは、そんな草の根の取り組みをつなげ、成長するための土壌をつくってきました。

活動年数

15 年

助成総額

2.82 億円

助成件数

248 件

支援先

109 団体 / 個人

多様な専門家とのネットワーク

科学者・法律家・市民活動など、多彩な選考委員が活動を評価・支援します。

公正で透明な選考プロセス

公募から選考委員会まで独立した仕組みで厳正かつ開かれた選考を実施します。

成果につなげる伴走支援

助成後も伴走し、専門家連携・情報発信・ネットワーク形成を継続的に支援します。

オーガニックシフト部門

（ネオニコチノイド系農薬問題プログラム）

2025 年度のオーガニックシフト部門「ネオニコチノイド系農薬問題プログラム」では、農薬の環境汚染および生態系への影響を可視化する調査研究や市民への広報啓発などを含む 4 件の活動を支援しました。各地で、水や土壌、水生生物に対する影響の実態解明と、市民との共有・対話の取り組みが進められました。

秋田の環境を考える県民の会は、秋田県内の河川・地下水・水道水を継続調査し、水道水から EU の基準を超える濃度のジノテフランを 4 年連続で検出しました。講演会や学習会も積極的に開催し、市民参加型の環境モニタリングを展開しました。

辻野兼範さんは、静岡県三ヶ日町のミカン園で、土壌中に残留するネオニコチノイド系農薬と土壌動物への影響を調査しました。減農薬区で生物多様性が高い傾向を確認したほか、市民向け啓発冊子の制作・配布も行ないました。

中里亮治さんは、霞ヶ浦（北浦）で湖水中のネオニコチノイド系農薬濃度と底生生物への影響を調査しました。代替農薬フロニカミドも検出され、オオユスリカ幼虫の減少との関連を含め、複合的な環境影響の可能性を示しました。

城本（大野）啓子さんは、西表島・石垣島の水田地帯を対象に農薬調査を実施し、農薬を使用していない水田からもネオニコチノイド系農薬を検出しました。水循環を介した広域的な農薬移動と、生物多様性への影響の可能性が示唆されました。

4 件の活動はいずれも、農薬問題を個別農地だけでなく、水系や地域生態系全体の課題として捉え直す重要な成果となりました。こうした成果を市民に還元する取り組みも進んでいます。



▲オーガニックフェスタ参加／秋田の環境を考える県民の会



▲研究成果を地域の関係者に共有／城本（大野）啓子

● 2025 年度採択企画

企画名【分野】	申請主体	助成額
霞ヶ浦（北浦）湖内のネオニコチノイド系農薬濃度の現状把握ならびに当該農薬が北浦のオオユスリカ幼虫の個体数密度におよぼす影響に関する研究【調査・研究】	中里 亮治	1,000,000 円
ミカン園土壌中の残留農薬と生物の調査及び啓発用冊子の作成【調査・研究】	辻野 兼範	904,450 円
秋田におけるネオニコ汚染実態の定量的解明と環境・食の安全基盤構築の県民的展開（2025）【調査・研究、広報・社会訴求、市場“緑化”】	秋田の環境を考える県民の会	2,000,000 円
「世界自然遺産の島」の水田における各種浸透性農薬の検出状況とその使用実態の解明【調査・研究】	城本（大野）啓子	1,000,000 円



オーガニックシフト部門 (オーガニック給食推進プログラム)

オーガニック給食推進プログラムでは、これから地域で取り組みを始めた団体・個人を支える「はじめの一步コース」と、すでに生まれた動きを継続・発展させる「ジャンプアップコース」を用意しました。上映会や学習会、給食実践、農家との交流、行政・地域との連携を通じて、子どもたちの食を入口に、安心・安全で持続可能な地域づくりの輪を広げました。

はじめの一步コース

一瀬瑞枝さんは、市川三郷町でオーガニック給食への関心を広げるため、映画『いただきます』シリーズの上映会を2回開催しました。来場者は計229名。保育園の食育や近隣事例、有機農家を紹介するパネル展示、地元の有機米・野菜の配布も行ない、地域で食を考える輪を広げました。

北信わの会は、「美味しく、楽しく地産地消」をテーマに、映画上映とトークセッションを開催し、97名が参加しました。準備・運営を通じて新たなつながりが生まれ、新聞等でも紹介。開催後は他団体からの参加依頼が届くなど、活動基盤の広がりにもつながりました。

社会福祉法人ひまわり福祉会 みらい保育園は、年間4回のオーガニック給食を実施しました。有機食材の調達先を調べ、有機農家と直接つながりながら、子どもたちが食材に関心を持って食べる機会をつくりました。有機農家を招いたおはなし会も開催して、今後の働きかけに向けた学びを深め、地域のネットワークづくりを進めました。

はじめの一步コースによる初めての助成から、上映会、給食実践、農家との交流、地域内外の連携が生まれました。各地の取り組みは、オーガニック給食を地域で共に育てる選択肢として広げる確かな芽となりました。



▲上映会でのトークセッション／北信わの会



▲みらい保育園でのオーガニック給食／社会福祉法人ひまわり福祉会

● 2025 年度採択企画（はじめの一步コース）

企画名	申請主体	助成額
市川三郷町にオーガニックシフトの動きを！こども食堂とコラボ☆ 食についての上映会	一瀬 瑞枝	59,000 円
美味しく、楽しく地産地消	北信わの会	100,000 円
“食のつながり”で子どもも大人もみんな元気になろう！	社会福祉法人ひまわり福祉会 みらい保育園	100,000 円

市民の手でつくるオーガニック給食

みどりの食料システム法の制定など国による有機農業への後押しもあり、全国でオーガニック給食への関心が高まっています。地域で有機農業を広げ、子どもたちの安心で健康な食につなげていくためには、生産者と消費者を地域で結びつける取り組みが重要です。

そこで abt では、幼稚園・保育園・小学校などにおけるオーガニック給食を地域で支える取り組みに携わる方々に声をかけました。そのために、abt として初めてクラウドファンディングにも挑戦し、多くの方々の応援を受けながら、市民の手でオーガニック給食を広げていくプログラムを 2025 年度よりスタートしました。



ジャンプアップコース

NPO 法人のこたべは、北海道鹿部町でオーガニック給食の継続・発展と地域への普及に取り組みました。栄養士向けオンラインゼミを全9回実施し、延べ120名超が参加。町内イベントや視察、生産者紹介カード・冊子制作、学童向け料理教室などを通じて、行政・生産者・家庭をつなぎ、「オーガニック給食はまちづくりである」という認識を地域で共有しました。

NPO 法人しずおかオーガニックウェブは、オーガニック給食の拡大・定着に向け、市民の理解を広げるための食農教育教材を作成しました。小学校高学年向け教材と教師用ガイドブックを各800部制作。実験授業や模擬授業も実施し、給食を通じて農業、生産者、環境とのつながりを学ぶ機会をつくりました。

ゆうき給食づくり隊は、農家や教育委員会、産業観光課と連携し、地域とつながる「食」の体験活動を進めました。有機キャベツ農家との交流、有機コマツナ農家への取材、有機タマネギの収穫体験、有機ニンジンの栽培・収穫、有機大豆の収穫、給食調理員による食育授業などを実施。地域で学ぶ「生きた教材」として学校給食を捉え、それを広げる取り組みとなりました。

ジャンプアップコースでは、実践を一過性で終わらせず、行政・生産者・学校・家庭を結びつける取り組みへと発展させました。各地の活動は、オーガニック給食を地域で継続していくための基盤づくりにつながっています。



▲うみをまもる給食会議／NPO 法人のこたべ



▲児童による栽培・収穫体験／ゆうき給食づくり隊

● 2025 年度採択企画（ジャンプアップコース）

企画名	申請主体	助成額
北海道鹿部町におけるオーガニック給食をもっと地域一丸となって浸透させたい	NPO 法人 のこたべ	500,000 円
市民の意識変容を促しオーガニック給食の拡大・定着を目指す「オーガニック給食食農教育教材作成事業」	NPO 法人 しずおかオーガニックウェブ (SOW)	500,000 円
地域とつながる「食」の体験を通して楽しく学ぶ研修会	ゆうき給食づくり隊	152,000 円

エネルギーシフト部門

エネルギーシフト部門では、脱原発・脱炭素社会への移行を、地域づくり、政策提言、国際的な課題把握の切り口から支援しました。地域主体の再生可能エネルギー導入、核燃料サイクルや次世代原子炉開発への問題提起、放射性廃棄物の海外処理をめぐる調査準備などを通じて、公正で持続可能なエネルギー転換に向けた知見の蓄積と議論のための基盤づくりを後押ししました。

NPO 法人 北海道地域・自治体問題研究所は、ソーラーシェアリングやバイオガスなど北海道内の地域主体の再生可能エネルギー開発について調査しました。域外資本による開発とは異なり、地域内での意思決定や便益還元が進む事例を検証し、再エネを地域産業やまちづくりに定着させる政策提案へとつなげています。

新外交イニシアティブは、核燃料サイクル計画や次世代原子炉開発の問題点をわかりやすく伝える短編動画シリーズを制作しました。全10回の動画では、核燃料サイクル、再処理工場、プルトニウム、核廃棄物、化石燃料依存などを扱い、政策提言とイベントも実施。六ヶ所再処理工場の妥当性を問い直し、再検証と開かれた議論を求める発信を行ないました。

認定 NPO 法人 原子力資料情報室は、低レベル放射性廃棄物の海外輸出をめぐる調査に取り組んでいます。廃炉で生じる廃棄物の処理について、輸出規制やリサイクル名目での処分などの観点から課題を整理しました。取材先との調整を進めており、海外での現地調査は実施時期を延期し、今後実施する予定です。

各企画は、地域に根ざした再エネの可能性と、原子力政策・放射性廃棄物をめぐる課題を異なる角度から可視化しました。エネルギー転換を、技術選択にとどめず、地域、政策、市民参加の問題として捉え直す取り組みとなりました。

● 2025 年度採択企画

企画名	申請主体	助成額
低レベル放射性廃棄物の海外輸出に関する現地調査	認定 NPO 法人 原子力資料情報室	930,000 円
再生エネを地域の産業・まちづくりに定着させるための政策提案 ～北海道における脱原発・脱炭素の地域づくりに向けて～	NPO 法人 北海道地域・ 自治体問題研究所	794,870 円
「核燃料サイクル計画」と「次世代原子炉開発」の問題点を解説し、政策変更を求める動画シリーズの制作	新外交イニシアティブ	1,500,000 円



▲当別町の木質チップ工場視察／
NPO 法人 北海道地域・自治体問題研究所



▲政策提言発表シンポジウム／新外交イニシアティブ

東アジア エコ&ピースシフト部門

東アジア エコ&ピースシフト部門では、国境を越えた市民交流や次世代の参加を通じ、環境保全と平和構築を進める取り組みを支援しました。脱原発をめぐるアジアの若者交流、渡り鳥のフライウェイを通じた子どもたちの国際交流など、多様な地域の人びとが出会い、学び合い、未来に向けた協働の土台を育てる活動が展開されました。

ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパンは台湾で開催されたフォーラムにおいて、日本、韓国、台湾、フィリピンの若者が参加する「NNAF 青年交流会」を実施しました。国際会議での発表や世代を超えた討論に加え、若者だけの交流会も行なわれ、脱原発運動の次世代への継承に向けた具体的な関係が構築されました。本企画の報告会で、交流会に参加した若者が脱原発を実現した台湾を見て、「世界は変えられるのだと思った」という感想を発表していたのが印象的です。

Team SPOON は、絶滅危惧種であるクロツラヘラサギの渡りのルート上にある異なる国・地域の子どもたちの交流成果を、国際会議等で発信しました。ラムサール条約 COP15、EAAFP パートナー会議、台湾・台南での国際フォーラムなどで、子どもたちが生きものの圏域を通じてつながる価値を共有しました。環境保全と平和構築を結び、次世代が主体的に連携する土台を築きました。

二つの企画は、脱原発と生物多様性保全という異なる入口から、東アジアにおける市民同士の協働を育てました。特に、次世代が国境を越えて学び合う経験は、環境と平和を支える実践的な基盤となっています。

● 2025 年度採択企画

企画名	申請主体	助成額
NNAF 青年交流会	ノーニュークス・アジア フォーラム・ジャパン	960,000 円
クロツラヘラサギフライウェイ子ども交流プロジェクトの国内外発信	Team SPOON	1,000,000 円



▲台湾での交流会／
ノーニュークス・アジア
フォーラム・ジャパン



◀ラムサール条約 COP15
エキシビジョンへの出展
／Team SPOON



フェーズシフト部門 (スポット助成プログラム)

スポット助成は、環境分野における試験的・萌芽的な取り組みを支援する、上限 30 万円の小規模助成です。2025 年度は初めて公募形式で実施し、未来世代、気候正義、地域の持続可能性など、多様なテーマに取り組む企画を採択しました。小さく始まる実践が、新たな議論や協力関係を生み出すことを後押ししました。

NPO 法人 未来世代のための市民委員会は、英国ウェールズの「未来世代法のためのウェルビーイング法」制定に関わった Jane Davidson 氏の初来日に合わせて、約 1 か月にわたる講演ツアーを実施しました。京都大学、大阪大学、早稲田大学などを含む 10 か所で開催し、未来世代の視点を政策や地域づくりに活かす議論を広げました。

渡辺晏子さんら数名が韓国・ソウルで開催された気候正義行進に参加し、韓国の気候アクティビストや研究者との交流、歴史関連施設の訪問を行ないました。気候運動におけるインターセクショナルな視点や市民運動の基盤の違いを学び、帰国後は動画発信と報告会を通じて、日本での実践に向けた問いを共有しました。

アースデイ若狭実行委員会は、若狭地域で持続可能な地域の未来を考えるトークセッションと交流型イベントを開催しました。トークでは世界的なビジョンと地域での小さな実践を結び、会場では来場者が「ワールドシフト宣言」を記入。23 団体・事業者の出店もあり、約 1,200 名が環境や未来を考える場に参加しました。

NPO 法人ふうは就労継続支援 B 型の事業の一環として、南さつま市に流れつく海ごみを利用したアップサイクル品ブランド「fuuno」を展開しています（助成期間継続中）。

初公募となったスポット助成では、環境課題への多様な入口から、学び、交流、発信の場が生まれました。小規模な支援を通じて、次の展開につながる萌芽的な実践を後押しすることができました。



▲京都大学での講演／NPO 法人 未来世代のための市民委員会
▼大阪・関西万博でのイベント／同上



▲縄文ロマンパークでのイベント／アースデイ若狭実行委員会

企画名	申請主体	助成額
つながる気候正義ツアー in 韓国	渡辺 晏子	300,000 円
Jane Davidson 来日講演ツアー	NPO 法人 未来世代のための市民委員会	300,000 円
若狭ローカルシフト・トークセッション	アースデイ若狭実行委員会	300,000 円
fuuno 魅力&認知度向上プロジェクト	NPO 法人ふう	273,020 円

採択企画／申請主体

● オーガニックシフト部門（ネオニコチノイド系農薬問題）

霞ヶ浦（北浦・西浦）湖内のネオニコチノイド系農薬およびその代替農薬濃度の季節変化ならびに当該農薬類の暴露がユスリカ類幼虫の死亡率や羽化障害におよぼす影響に関する研究／中里 亮治

室内ほこりに含まれるネオニコチノイド系農薬調査／一般社団法人農民連食品分析センター

秋田におけるネオニコ汚染実態の定量的解明と環境・食の安全基盤構築の県民的展開（3）／秋田の環境を考える県民の会

「世界自然遺産の島」の水田における各種浸透性農薬の検出状況とその使用実態の解明／城本 啓子

● オーガニックシフト部門（オーガニック給食推進）

You are what you eat～食べたもので体は作られる～／NPO 法人 むかいしま seeds

熊本の学校給食で有機のお米・野菜を使おう！アクション／くまもとのタネと食を守る会

育てて食べるオーガニック給食プロジェクト／北信わの会

保育園オーガニック給食拡大プロジェクト／NPO 法人 ゆめプロ

● エネルギーシフト部門

泊原子力発電所に係る原子力防災・避難計画の分析・検証と提言／泊原発立地 4 町村住民連絡協議会

日本の洋上風力発電を『持続可能な開発』へ転換する：台湾の沖合 35km・14MW 巨大風車稼働実態の科学的検証と政策提言／鶴岡持続可能社会研究所 持続可能な洋上風発チーム

● 東アジア エコ&ピースシフト部門

クロツラヘラサギフライウェイ子ども交流プロジェクト／Team SPOON

初めて助成を受けるみなさんからの声

本助成で注目してほしいことや、いちばん力を入れたいことについて伺いました。

保護者も体験することで、こどもに還元されること。たとえば味噌作りや梅干し作りは、実際に家庭で行うようになった人が増えました。今年は保護者と一緒に畑作りをし、食材や味噌作り的大豆作りにも挑戦します。またこどもと毎週昼食を作ること、調理経験を積み、生きる力とさまざまな事に感謝できる力を身につけてもらうことに注目してください。

NPO 法人むかいしま seeds
(オーガニック給食推進プログラム)

ゆめプロ提携保育園を増やすことです。増やすことにより、園が食糧危機や食料の安全面の懸念があるなか、ゆめプロを『自園ファーム』として活用していただきます。この先起こる可能性がある米不足への先手を打つだけではなく、園としてオーガニック社会の推進への参加、また園児のご家庭への啓蒙にもつなげていくことです。オーガニック給食の本質をご理解いただく方々が増えるよう結びつけます。

NPO 法人ゆめプロ
(オーガニック給食推進プログラム)

「反対」ではなく「あるべき未来（正解）」を示すアプローチが特徴です。（中略）ドキュメンタリー映像として可視化し、「日本は環境と共生できる離岸 20km の浮体式（ポルトガル型）を目指すべきだ」という、建設的で明確なゴール（代案）を社会に提示します。（中略）日本のエネルギー政策を正しい方向へ動かすための「実践的なアクション」である点にご注目ください。

鶴岡持続可能社会研究所
持続可能な洋上風発チーム
(エネルギーシフト部門)

2025 年度 広報・啓発／ 調査・研究事業

2025 年度には、初めての試みである東アジアの環境と平和を考える共創シンポジウム、好評のシリーズ企画 Future Dialogue のほか、オンラインコミュニティ acty から生まれた「知恵の環（わ）」など、幅広いイベントを開催しました。さらに、note 連載「オーガニックくえすと」、生協の農業表示に関する独自調査レポートを通じ、学びと対話と実践につながる情報発信を進めました。

共創シンポジウム

東アジアのエコ&ピースシフトをめざして

2025 年 11 月 24 日 @ 三茶しゃれなあどホール（世田谷区民会館別館）／ハイブリッド開催



東アジア地域はときとして国レベルの政治的緊張が高まる一方で、文化的な共通点や環境面での接点も少なくありません。この地域で市民同士の草の根交流を深めることは、環境保全にとっても、そして最大の環境破壊である戦争を防ぐためにも極めて重要です。これからの時代にふさわしい東アジアにおける環境保全や市民交流・平和構築のあり方、東アジアの平和と環境保全のために動く人や市民交流を体現する人を増やすには何ができるのか、広く共に考える場を設けました。

当日は、環境保全と平和構築を切り離さずに考える視点や、地域資源を市民自身が守り育てる仕組みづくりについて意見を交わしました。また、地域での実践と政策への働きかけを両輪で進めることの重要性や、各地の取り組みをつなぐネットワークの可能性についても議論が深まりました。地域に根ざした学びと実践を通じて、これからの社会課題に向き合うための知恵を共有する機会となりました。



話題提供／パネリスト

森 良（ECOM 代表／日中韓環境教育ネットワーク呼びかけ人）
朱 惠雯（日中市民社会ネットワーク事務局長）
高久 ゆう（Team SPOON 副代表）
谷山 博史（日本国際ボランティアセンター元代表理事・現顧問／沖縄対話プロジェクト発起人）
深尾 葉子（大阪大学大学院人文学研究科 教授）
奥田 裕之（未来バンク理事／一般財団法人リタ 市民アセット財団 副理事長）

ファシリテーター

藤井 芳広（NPO 法人 いとなみ代表）

話題提供／グラレコ

北畠 拓也（abt 事務局長）

Future Dialogue #11

東アジアにおける 脱原発と気候正義の最前線

2025 年 7 月 21 日 オンライン開催

講演／パネリスト

高野 聡（認定 NPO 法人原子力資料情報室／ソウル大学環境大学院博士課程修了）
川崎 彩子（認定 NPO 法人原子力資料情報室／若者気候訴訟の原告）
渡辺 あこ（Ilpen(일펜) Solidarity Club）

パネリスト

北畠 拓也（abt 事務局長）



原発事故から 14 年を経て、日本では気候変動対策の名のもとに原発回帰の動きが進んでいます。本イベントでは、韓国・台湾の脱原発運動や気候正義運動の経験を手がかりに、原発に頼らない社会のあり方を考えました。

ディスカッションでは、気候危機やエネルギー問題を単独で捉えるのではなく、ジェンダーや貧困、人権などの交差性（インターセクショナリティ）に着目する重要性が共有されました。東アジアの市民社会による実践や連帯から学び、より公正で持続可能な未来への道筋を探る機会となりました。

オーガニックシフト部門（ネオニコチノイド系農薬問題プログラム）

2024 年度助成成果報告会

2025 年 6 月 8 日 オンライン開催



▲ネオニコチノイド系農薬の継世代影響をマウスを用いた実験で明らかにした星信彦さんは助成最終年度（5 年目）を終えました。



◀NPO 法人 西日本アグロエコロジー協会は、滋賀県高島市と兵庫県丹波市における有機／慣行水田での残留農薬や水生昆虫の調査を 3 年にわたって実施しました。

テーマ／発表者

農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較（2024）／NPO 法人 西日本アグロエコロジー協会

父性曝露影響から捉えるネオニコチノイド系農薬の継世代影響評価・エピゲノム毒性／神戸大学大学院農学研究科・星研究室

秋田におけるネオニコ汚染実態の定量的解明と環境・食の安全基盤構築の県民的展開／秋田の環境を考える県民の会

環境 DNA 分析による「世界自然遺産の島」の水田の生物多様性へのネオニコチノイド系農薬の影響評価の試み／城本（大野）啓子

2024 年度までの公募助成は「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」に限られていたため、成果報告会も同部門のみの開催となっています。

各助成先からは、水田における農薬残留と生物多様性の参加型調査、ネオニコチノイド系農薬の次世代への影響、秋田県での水道水汚染調査と市民啓発、世界自然遺産地域に隣接する水田での環境 DNA 分析など、多角的な取り組みが報告されました。

調査・研究の成果を共有するとともに、農薬使用のあり方や地域の環境保全、市民参加による監視と政策提言の重要性を改めて確認しました。

映像＋インタビューによる note 連載 オーガニックくえすと

ネオニコチノイド系農薬の問題点やオーガニック農産物を広げる取り組みについて、さまざまな現場の方々に話をうかがう連載企画です（2025 年 3 月から更新中）。

究極の美味しいおむすびを作りたい……という素朴な関心から、「びお子さん」の探求が始まりました。ネオニコフリーを進める生協、農薬残留を調べる分析センター、オーガニック生産者、お米の間屋さん、地域のオーガニックマーケット主催者、川魚の減少を心配する釣具屋さん、有機農業を進めるロビイストなど、これまで 7 人の方に登場してもらいました。note での連載は幅広い読者層にリーチしています。



https://note.com/organic_quest

これまでのタイトル

- 第 1 回「教えて！鈴木さん——お米はネオニコなしで作れないの？」
- 第 2 回「教えて！八田さん——ネオニコは洗っても落ちないの？」
- 第 3 回「びお子の自習大作戦」
- 第 4 回「教えて！馬込さん——お米が私たちのものに届くまでって？」
- 第 5 回「教えて！今井さん——農業ナンでお米や野菜をつくるのってどうですか？」
- 第 6 回「教えて！杵塚さん——地元でオーガニックマーケットを始めた理由って？」
- 第 7 回「びお子の『夏休みスタンプラリー』」
- 第 8 回「教えて！柏瀬さん——川から小魚が減っているって本当ですか？」
- 第 9 回「教えて！郡山さん——有機農業を進めるロビー活動って何ですか？」

独自調査レポート 『どうなっているの？ 生協の農薬表示』

2026 年 1 月、『どうなっているの？ 生協の農薬表示——生協の宅配ウェブカタログにおける農薬等の表示に関する調査レポート』を発行しました。

食品の安全性を確認する際に必要な情報開示の指標として、全国の生活協同組合の商品カタログ（米・野菜）に表示されている「農薬や化学肥料の使用に関するマーク」を独自調査しました。併せて、農水省が定める「有機 JAS」や「特別栽培」マークの意味を解説するコラムも掲載し、積極的に「ネオニコフリー」に取り組む生協の実践例も紹介しています。abt サイトから PDF で入手可能です。

『どうなっているの？ 生協の農薬表示——生協の宅配ウェブカタログにおける農薬等の表示に関する調査レポート』（2026 年 1 月）
A4 版・カラー（16P）

コンテンツ

1. 農薬や有機農業の基礎知識
2. 生協宅配ウェブカタログの表示
3. ネオニコフリーの取り組み



<https://www.actbeyondtrust.org/info/21993/>

オンラインコミュニティ acty（アクティ）



“公正で持続可能な社会をつくりたい”——そんな思いを持った人々が集い、問題意識を共有しながら、ともに語り合い、知恵を紡ぎ合わせる場として、2023 年度からオンラインコミュニティである acty(アクティ)を運営しています。

これまでは acty メンバーがアイデアを持ち寄り、定期的なオンラインワークショップを実施してきました（2 か月に 1 回程度／2025 年度は 6 回実施）。一人ひとりの異なる問題意識や、それぞれが日常の中で抱えている思いが交わり、発酵していくような学びの場です。有料のメンバーシップ制（年会費 6,000 円／ユース割引あり）ですが、無料の体験参加をきっかけに、関心のある方を随時受け入れています。社会や環境の課題を解決したい、自分らしく生きたい、一歩踏み出す勇気がほしい、苦しい状況の人に寄り添いたい、そのように考えている人とつながりたい……そんな方のご参加をお待ちしています。

また、acty のメンバーが主体的に企画する、配信イベント「知恵の環（わ）」も開催しています（2025 年度は 3 回実施）。このネーミングには、人々の知恵がつながり合うという願いが込められています。acty のメンバーが注目・尊敬し、みんなに知ってほしいと感じる“推し”をゲストに招いて、深く語り合うイベントです。一部のアーカイブを公開していますので、ぜひご覧ください。



▲第 2 回ゲスト：岡佑平さん（芦生山の家 館長）



▲第 3 回ゲスト：木之内均さん（東海大学 副学長）



▲第 4 回ゲスト：牧原ゆりえさん（一般社団法人 サステナビリティ・ダイアログ 代表理事）

<https://www.actbeyondtrust.org/info/16991/>

2025 年度決算報告（短縮版）

2025 年度は、11 月 19 日に内閣府より公益社団法人としての認定を受けたため、認定前（第 16 期／一般社団法人）と認定後（第 17 期／公益社団法人）に会計期間を分ける「分かち決算」を行なっています。これは公益法人への移行に伴う制度上の取り扱いによるもので、第 17 期は約 3 か月間の数字となります。通年での正味財産は前年度末の約 4,723 万円から当年度末の約 4,299 万円で推移しました。今後も透明性の高い財務運営と、多様な市民活動を継続的に支える基盤づくりに努めてまいります。

第 16 期

2025 年 3 月 1 日～11 月 18 日（公益認定前）／一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト

正味財産増減計算書（要約）		貸借対照表（要約）	
区分	金額（円）	区分	金額（円）
経常収益	34,456,419	流動資産	51,104,991
受取助成金	33,000,000	固定資産	147,016
受取寄付金	1,373,028	資産合計	51,252,007
雑収入等	83,391	流動負債	117,761
経常費用	30,426,231	固定負債	0
事業費	23,376,252	負債合計	117,761
管理費	7,049,979	正味財産合計	51,134,246
当期経常増減額	4,030,188	負債及び正味財産合計	51,252,007
法人税、住民税及び事業税	128,529		
一般正味財産増減額	3,901,659		
一般正味財産期首残高	47,232,587		
一般正味財産期末残高	51,134,246		

※受取助成金は、公益財団法人 信頼資本財団による共感助成事業に基づく助成金です。公募助成事業および広報啓発事業、調査研究事業に活用しました。上記枠組みによる助成期間は終了したため、次年度以降は法人・個人から当団体に対する直接のご寄付を活用して運営します。

第 17 期

2025 年 11 月 19 日～2026 年 2 月 28 日（公益認定後）／公益社団法人アクト・ビヨンド・トラスト

正味財産増減計算書（要約）		貸借対照表（要約）	
区分	金額（円）	区分	金額（円）
経常収益	910,582	流動資産	43,115,000
受取会費	18,000	固定資産	122,465
受取寄付金	867,261	資産合計	43,237,465
雑収入等	25,321	流動負債	247,061
経常費用	9,050,680	固定負債	0
事業費	6,349,970	負債合計	247,061
管理費	2,700,710	正味財産合計	42,990,404
当期経常増減額	△8,140,098	負債及び正味財産合計	43,237,465
法人税、住民税及び事業税	3,744		
一般正味財産増減額	△8,143,842		
一般正味財産期首残高	51,134,246		
一般正味財産期末残高	42,990,404		

※公益認定後は、主な助成事業および広報・啓発事業、調査・研究事業を公益目的事業 1 として、助成原資の一部をクラウドファンディングで集める公募助成オーガニック給食推進プログラムを公益目的事業 2 として実施し、公益法人に求められる区分経理を行なっています。

※詳細版はウェブサイト（<https://www.actbeyondtrust.org/statement/>）をご覧ください。

ご寄付について

abt の活動は、みなさまからのご寄付や協働によって支えられています。一人ひとりの思いや行動が、市民活動を育み、地域や社会の未来につながっています。公益法人へのご寄付は、一定の要件のもとで税制上の優遇措置の対象となります。これからも多様な市民の活動を支えていくために、ぜひご寄付や協働というかたちでご参加・ご支援をお願いいたします。

ご寄付をお考えの個人のみなさまへ

個人のみなさまからのご寄付について、支払った年分の所得控除として「寄附金控除」の適用を受けることができます（寄附金控除を受けるためには確定申告の際に手続きが必要になります）。クレジットカードでのご寄付も可能です。

継続寄付（マンスリーサポーター）

月々 500 円からご支援いただくことができます。寄付者限定のニューズレターを配信します。

遺贈寄付・ご香典による寄付

将来世代への贈りものとして遺言によるご寄付も受け付けています。まずお気軽にご相談ください。

単発寄付（とりあえず今回だけ）

1,000 円からご支援いただけます。イベント等での寄付つきチケットもご用意しています。

詳細はウェブサイトより「寄付する」（<https://congrant.com/project/actbeyondtrust/19468>）をご覧ください。



ご寄付や協働をお考えの法人のみなさまへ

ご寄付のほか、さまざまなかたちのサポートをお待ちしています。法人のみなさまからのご寄付は、「特定公益増進法人等への寄付金」に該当し、一般の寄付金とは別枠の特別損金算入限度額の範囲内で、損金算入できます。社会貢献活動の一環として税制上の優遇措置を受けながら abt の活動をご支援いただくことが可能です。まずはお気軽にご相談ください。

ご寄付によるサポート

法人月額寄付サポーターや単発に寄付つき商品開発や社員研修など、月々のご寄付でのご支援いただけます。企画段階から一緒にいたします。

協働事業の実施

ドナー・アドバイズド・ファンド

思いをかたちにするための独自の助成事業をご一緒に企画・運営します。

法人月額寄付サポーター

ブロンズ Bronze	シルバー Silver	ゴールド Gold	プラチナ Platinum
¥10,000/ 月 ¥120,000/ 年	¥30,000/ 月 ¥360,000/ 年	¥50,000/ 月 ¥600,000/ 年	¥100,000/ 月 ¥1,200,000/ 年
● 限定ニューズレター ● アニュアル・レポート ● ウェブサイトへの社名掲載 ● 企業パートナーロゴ使用权	● Bronze の全特典 ● ウェブサイトへのロゴ掲載（小） ● メールマガジンでの社名紹介 ● 成果報告会での社名紹介	● Silver の全特典 ● ウェブサイトへのロゴ掲載（中） ● メールマガジンでの企業紹介記事掲載	● Gold の全特典 ● ウェブサイトへのロゴ掲載（大） ● 社員向け研修・講演開催

詳細はウェブサイトより「企業として支援する」（<https://www.actbeyondtrust.org/corporate-support/>）をご覧ください。



発行日：2026 年 7 月

公益社団法人アクト・ビヨンド・トラスト

〒154-0005

東京都世田谷区三宿 1-14-8 三宿パドスクエア 308

Tel 03-6665-0816（代表）

<https://www.actbeyondtrust.org/>